

海外の人権活動家  
松代町清野の大島博光記念館は16日、チリ出身で英國領北アーレンダ在住の人権活動家ロベルタ・バシックさん(63)の講演会を館内で開いた。バシックさんは、1970年代~90年にチリで続いた旧軍事政権への抵抗運動で民衆の女性たちが手作りし、同記念館がそのうち90点近くを保管しているタペストリー作品「アルビジェラ」の史料的意義などについて解説した。約30人が聴講。バシックさんはアルビジェラについて、軍政成立の発端となつたクーデ

チリや、軍政下で政治犯などとして夫らを連れて縫い表し、発信する目的で作られたと説明。同記念館が保管する作品については、チリで民

## 海外の人権活動家 大島記念館の保管作品で チリの抵抗運動解説



アルビジェラに縫い表された図柄について解説するバシックさん

大岡甲の「カフェテラスモモ」ほどのほど、デザイナーのナナアクリーさん(37)は松本市を講師に「消しゴムハンコ」と手ぬぐい作教室を開いた。女性8人が参加して専用の消しゴムに好きな絵

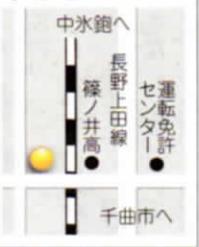
大岡甲の「カフェテラスモモ」ほどのほど、デザイナーのナナアクリーさん(37)は松本市を講師に「消しゴムハンコ」と手ぬぐい作教室を開いた。女性8人が参加して専用の消しゴムに好きな絵

## 消しゴムハンコ作り 大岡甲の「カフェテラスモモ」ほどのほど、デザイナーのナナアクリーさん(37)は松本市を講師に「消しゴムハンコ」と手ぬぐい作教室を開いた。



題材で作れるのが楽しい」と熱中。講師の作品を参考にタマネギとリンゴを彫り、消しゴムハンコを手拭いに押し当てていた廣田寿美

ナナアクリヤさん(中央)から消しゴムハンコの彫り方を教わる参加者



配したけれど、ちゃんと見ても見える」と喜んだ。ナナアクリヤさんは昨年末から今年にかけて大岡地区住民自治協議会から依頼を受け、大岡小・中学校の児童

生徒に贈る記念品として県無形民俗文化財の「芦ノ戻道祖神」などを題材にした消しゴムハンコで手拭いを作成。同地区との縁が深まっているという。



井飲食店が酒蔵見学会  
もろみ発酵音聞き試飲も  
篠ノ井布施高田の飲食店「まちの円居(まどい)」食の団欒(だんらん)丸十(まるじゅう)はこのほど、東飯田酒造店=篠ノ井小松原=を訪ねる「酒蔵見学会」を開いた。公募で市内外から集まる10人が、昔ながら日本酒やりキュー(キュー)ルを試飲する参加者

若穂の医師ら公開討論や講話  
地域医療懇談会  
「若穂地域医療懇談会」が15日、市若穂文所で開かれた=写真。JAグリーン長野若穂地区保健福祉推進委員会などが主催し、約100人が参加。医師によるパネル討論や健康講話があった。

古い道具が並ぶ資料館を見て回った。

参加者は飯田慎社長の案内でもろみを3回に分けて仕込む「三段仕込み」の過程を見



その上で、禁じられた時期もあるアルビジェラ作りは勇気のいるエラ作りが実現した1990年の前後に作られたものが多いと述べた。

飯田社長(左)の説明を聞きながら日本酒やりキュー(キュー)ルを試飲する参加者

生連長野松代総合病院パネル討論には、厚生連長野松代総合病院の仲介で初めて長野市を訪れ、同記念館の作品を調査。うち10点余を借り、アルゼンチンで開かれる国際的なアルビジェラ展で披露する予定だ。

# 南長野版